1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団　聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	すみれ
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀６３-５		
自己評価作成日	平成２４年２月２日	評価結果市町村受理日	平成24年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278300211&SCD=320&PCD=22

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成24年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が、利用者１人ひとり家族のような想いで支援し、笑顔あふれる毎日が送れるように関わりを大切にしている。それは、毎日行っているカンファレンスでも利用者の立場にたった意見を出し合い、その人らしい生活が送れるように支援を真剣に考えている。「お互い様の心」の理念の下、どんなことでも話し合いが出来る関係が作れ、お互いの仕事などを認め合い、感謝の気持ちを持っている。結果、仕事上の感性の完熟にもつながっている。また、ご家族や地域の皆さまのご理解やご協力もあり、深く感謝をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が安心して散策が楽しめる近郊住宅街に位置する。敷地内には利用者が収穫を楽しむ畑や、運営推進会議等の際に使用する民家を保有している。住まいは利用者にとって分かり易い表示の工夫がされ、採光やスペースが充分に確保されている。管理者はサービスの質に及ぼす、地域との関係や職員の感性・情報の共有について重要な要素として認識している。このことは、奇数月には個人用、偶数月は全体用の「あすかだより」の発行・運営推進会議・入社時研修の内容・職員会議の議事録内容等から実践状況が確認できた。「お互い様の関係性」を目指す取り組みは利用者・職員の安らぎの表情から察することができた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互い様の心」の理念の下、毎日のカンファレンスや、勉強会や会議などの話し合いを通じて意識付けをしている。利用者やご家族や地域の方々、職員同志、関わる方々に感謝の気持ちを持ちながら、日々前向きに取り組んでいる。	理念を具現化する明日香10ヶ条を掲げている。新人研修では、2日間の利用者疑似体験による、心と体についての内省に始まり、毎月全員参加の議事録から理念を背景とした意見と合意を図る取り組みが認められた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や愛犬の散歩を通して会話や挨拶をしている。自治会にも参加させていただき、町内清掃やお祭りの参加や、回覧板を回していただいている。近所の方には、野菜をいただく事もある。	自治会行事には地域の一員として参加し、また明日香が開催する行事の案内をしている。自治会とも疎通が図られ救命講習等では地域の公民館を借用する協力も得られ、地域との関係性を強めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の中学校の福祉体験の受け入れや、人材育成の貢献として、ヘルパー2級の実習受け入れを行っている。また、行事の際には、事前に回覧板でお知らせし、気軽に参加していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族全員にお手紙を出している。自治会長や民生委員、包括支援センター職員や入居者にも参加していただく事もある。状況報告や課題に対してご意見をいただきながら、検討や改善に努めている。	特筆すべきは家族参加人数が各回4～10名を数える。家族および参加者の意見が議事録にも反映されている。家族参加による避難訓練にも意見が反映され、推進会議の取り組みが活かされている。	開催は3ヶ月毎のペースである。明日香の状況を期間を置かずに把握してもらう趣意で、参加者の負担を考慮した開催形式等の検討により、頻度を増やしていく取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加時やその都度困ったことや疑問点などがある時には、市役所や区役所に相談して、意見をいただいている。	介護相談員の訪問や市職員の運営推進会議への参加が定期的な連携の場であり、相談や意見を交わす機会としている。また地域包括支援センターと市が関わる認知症サポーター養成講座開催等にも連携し取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をせず、自ら外出される方の見守りを職員は常に意識をしている。その際は、本人の想いを聞き、くみとるようにしている。身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識を図っている。	拘束に関する行動指針がある。職員は外部・内部研修の報告書や勉強会での発表を担当することにより理解を深めている。また管理者は職員と、自分に対する拘束や制約を想定した場合の気持ちを毎年確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中でも学び、全職員が理解を深めるようにしている。職員の対応の仕方（声のかけ方や身体介護方法など）を話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が、理解を深めるようにしている。実際に利用されている方はいない。職員がいつでも確認できるようにファイルにして本棚に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて契約書や重要事項説明書や重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、言動などから思いや意見を聴くように心掛けている。面会時や電話などで要望や思いを気軽に言っていただけるような雰囲気作りに努めている。介護相談員の来訪もある。また意見箱の設置を行った。	家族に対し意見や要望に関するアンケートを行い、サービスの満足度を把握している。また家族参加の防災訓練におけるアンケートでは、利用者の代役時の気持ちや避難時の課題についての意見を反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やリーダー会議、勉強会などでテーマを決めて職員の意見が統一できるように話合い、取り組めるようにしている。必要時には、個人面談や代表者との食事などでコミュニケーションを図るようにしている。	全員が参加する職員会議やリーダー会議が毎月開催される。「ルールを変えたいなら会議で意見を」を基本とした議事録の内容から、職員の意見の反映と意思統一が図られている事が認知できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加費や交通費を法人が全額負担してくれている。法人内では、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得のための勉強会の開催やリフレックス休暇制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望時や必要時には外部研修に参加している。研修参加者は、当ホームにて伝達講習を行い、全職員が理解できるようにしている。報告がない時には、状況にあったテーマで勉強会をしている。また個々に合わせて丁寧に新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時に交流を深めている。訪問や見学や研修の受け入れなども行い、意見交換などする機会がある。また、地域連携研修にも参加し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から情報をいただく事が難しい時には、ご家族に伺ったり、ご家族の了解のもと家や他施設に伺い、情報提供していただいている。入居時にご本人が出来るだけ困らないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただきながら、想いを伺い、対応出来るようにしている。申し込み後も定期的にお電話をしてお話を伺うようにしている。入居前には、センター方式を用いて更にご家族の要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容やご本人の状況によって、可能な限り対応できるようにしている。現在は、訪問リハビリ（医療保険）や訪問歯科を利用される方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、関わりを深めている。家事などを通じて、活躍出来る環境もあり、職員が学ばせていただく事も多い。また、利用者と職員お互いが感謝の気持ちを持ちながら支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をしている。また電話報告や月1回のお便りなどでも報告している。行事の際には、ご家族に呼びかけて準備や片付けなど手伝っていただいており、外出なども声をかけて、繋がりを大切にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力いただきながら友人や兄弟に遊びに来ていただいたり、飼っていた犬や動物をを連れてきていただいている。また、年賀状を送り、繋がりを大切にしている。	契約時には、利用者が馴染みの関係を継続できるように家族からの理解が得られている。馴染みの場所への同行外出や訪問等において、家族による協力が得られ、利用者・家族にとっても喜びとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、1人ひとりの性格や趣味などの情報を共有し、配慮や見守りをするようにしている。表情や行動、言葉から気持ちを読みとり、利用者同士のコミュニケーションが潤滑になるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院された際には、お見舞いに行ったり、お亡くなりになられた時には葬儀に参列させていただいている。また、退居後もご家族が遊びに来られたり、またサポートしてくれる事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて情報収集に努めている。毎日のカンファレンスでは、日々の関わりの中での言動や状態から原因背景を考え、本人の想いをくみとりながら話合い、本人にあったケアが出来るように努めている。	センター方式による情報収集を柱としている。職員は言葉のみによらず、日々の関わりの中で本人の思いを汲みとるよう努め、毎日のカンファレンスで互いに把握する情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族や他サービス事業者などから情報を（センター方式）をいただき、全職員で把握に努め、ケアに取り組んでいる。入居後もその都度、ご家族から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつも」を知り、変化に気付く事が出来るように努めている。朝と夕方の申し送りなどから、日によって出来る事やわかる事を見極めながら、関わり、記録に残している。必要時には、状況チェック表を使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の想いや意見を大切にするため、に、センター方式を用いている。また、担当者がまとめたものをカンファレンスで話し合い、多くの職員の意見を取り入れながら作成している。	本人や家族等関係者の意見・要望と合わせ、職員の持つ情報をカンファレンスし、計画担当者が介護計画を作成する。新規利用者は3ヶ月、その後6ヶ月毎のモニタリングで見直しを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的に、日常記録や状況チェック表などへ記入し、情報の共有が出来るように努めている。ヒヤリハットや急変などは色を変えて把握しやすくし、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診は職員が付き添いを行っている。その他の受診は、ご家族にご協力をお願いしている。本人や家族の状況に応じて送迎等が必要な時には、対応している。ご家族や本人の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは、太鼓やピアノ、歌手、お手伝いなど様々なボランティアにきていただいている。訪問理美容や地元中学生の福祉体験受け入れ、防災訓練では、消防署に協力いただき指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、同意を得て、ご協力いただいている。かかりつけ医の受診には、検査内容の把握や送迎など、緊密に連携がとれている。毎週2回往診や、急変時には、看護師や先生に来て頂いている。	協力医との連携で頻回に往診を受け、定期的な健康診断も実施している。定めた手順に従い緊急時にも対応できており、希望するかかりつけ医への受診支援等、家族の協力のもとできる限りの支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日１～２回、顔なじみの看護師に来ていただいている。利用者の状態を毎日報告しており、相談がしやすい環境である。急変時に連絡すると、２４時間体制で対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、付き添い本人の情報を細かく提供している。職員は、お見舞いに行くようにしている。退院後に過ごしやすいように、病院からの説明に立ち会わせていただいたり、情報をいただき、対応策を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、同意を得ている。状況に変化があった時には医師や看護師と職員が連携をとり、その都度、ご家族に連絡し話合い、安心していただけるように努めている。	早い段階から重度化や終末期における対応を、本人や家族に丁寧に説明している。医療関係者等との連携で見取りを実施した経験を活かし、事業所のできることを関係者で話し合い、より安心できる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当法人の看護師にその都度助言や指導をしていただいている。新人職員にも理解できるように職員よる緊急時対応方法マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。また毎月リスクマネージメントを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに、運営推進会議ではご家族、地域の代表者や民生委員にもご協力、ご参加していただき避難訓練を行い、消防署の指導助言をいただき、理解を深めている。	職員は研修や夜間想定訓練等で災害に備えており、消防署の助言も得て定められた手順に従い、年2回の避難訓練を実施している。家族や住民等との連携で、非常時の協力体制づくりの取り組みを進めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの状況に合わせた声かけや対応をしている。個人情報は漏洩する事がないように注意している。	マニュアルや指針に基づいて、職員全員が本人の尊厳やプライバシーを守ることに努めている。言葉掛けや現場での書類の取り扱い等で、日常的な慣れを防ぐ為の方法を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい利用者には行動や表情から読みとる事や選択しやすいように配慮や働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には可能な限り対応出来るようにしている。利用者の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行かれたり、親戚による散髪や訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカットや毛染めやパーマを行っている。意思表示が上手く出来にくい利用者には、情報から「その人らしさ」を大切にする支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から野菜を切ったり、盛り付けや配膳、片付けなど会話をしながら行っている。畑で採れたものを調理したり、日曜日には好みの物を一緒に作っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥、おにぎりなどで対応している。	法人全体で配食サービスを利用している。日曜日には利用者と職員が好みの料理を作り、配膳して共に食事の時間を楽しんでいる。できる限り自分で食事ができるよう、十分な時間をかけて見守るケアを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録しており、食欲などの変化が把握できるようにしている。食欲がない時には、嗜好品などで柔軟に対応している。水分摂取が少ない時には、本人に合わせた時間や飲みやすい物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には1人ひとりに合わせた支援方法で歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎週歯科医と歯科衛生士の往診があり、必要時に診ていただき、相談もしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が、おむつ体験をして気持ちの理解に努めている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。状況チェック表を使用しサインや排泄パターンをつかむように心がけ心地良く過ごす事が出来るように支援している。	一人ひとりの状況チェック表の活用で、排泄時間を定めることなく個別のケアができており、改善の事例もある。プライバシーに配慮した言葉がけなど、利用者が心地よく過ごせる支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品を取り入れている。日曜日には食物繊維が多く摂れるような食材を使用する事もある。水分が進まない方には、嗜好品で対応している。また、おむつの方も排便がトイレで出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしている。本人の希望を聞きながら個々の入浴状況を把握し、嫌がる方には安心していただけるように意識的に関わりを増やして1人ひとりのタイミングを大切にした声かけや楽しみとなるような環境作りを心掛けている。	本人の希望にできるだけ沿えるよう努力している。毎週2～3回の入浴が確保できるように努め、拒否者には根気よく接し、時には職員を交代するなど個別の状況に配慮する支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言動から、体調や疲労などをよみとり、休息が出来るように配慮している。夜間眠れない時には、原因を探り、お話を聞きたり、飲み物を飲んだり、嗜好品を食べる事もある。また、添い寝など安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに残し、管理している。処方変更時には、連絡ノートに記入し、職員全員が把握出来るようにしている。変化は記録に残すようにしている。内服は個々に合わせた支援を行い、飲み込むまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からいただいた情報をもとに、利用者の得意分野を活かしながら、関わりをもつように努めている。利用者が行いやすいように環境作りを行い、意識的に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭での日向ぼっこや犬の散歩や買い物、ドライブに行かれている。ユニット毎の外食は計画的に行い、ご家族の協力もあり、親睦を深めている。食事もご家族と地域の方の理解により食べやすいように配慮され、ミキサー食の利用者も参加する事が出来た。1人ひとりの満足度に繋がるように、出来る限り対応している。	日常の散歩に加え、近隣の商店や郊外のスーパーへの買い物にも出掛ける。家族の協力のもと、敬老会や忘年会・節句などを季節の折々に計画し、希望の場所での花見や外食などを楽しむ支援をしている。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が管理されている利用者もいるが、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理されている利用者が多い。支払いは、出来るだけ利用者に行っていただけるようにお財布をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて、ご家族や親しい人に送っている。返事が来ると喜ばれている。電話は、希望時や、電話をかけて来られた際に、本人と大切な人を繋ぎ、やりとりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、月ごとに季節にあった飾り付けをさりげなく行っている。また、季節の花をいただいたり、植物が置いてある。季節によって1階フロアーからは藤棚や廊下からは、紫陽花やさざんかが見える。利用者に合わせた環境作りに配慮している。	台所や浴室、洗面所等共有スペースは清掃が行き届き清潔感がある。居間と食堂は一続きの空間で窓際に和室が設えられており、季節に即した飾りつけと相まって利用者が思い思いに過ごすことのできる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でくつろく事が出来るようにしている。廊下の窓の近くにソファーや鉢植えなどを置き、心地良く過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みのもの（健康器具・植物）など持ち込んでいただいている。家具の配置などは、安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら工夫している。	居室は明るく十分な広さがある。安全上差し障りがなければ使い慣れた馴染みの品々で部屋を飾ることができる。利用者はそれぞれの思いがあふれる雰囲気の中で、穏やかな毎日を過ごして行ける。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	関わりから、今出来る事やわかる事を見極め、支援出来るようにしている。個々に合わせ声をかけたり、一緒に行動して本人の立場になって考えるように努めている。昼夜トイレがわかるように必要な所はドアを開けて電気をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団　聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	ひまわり
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	平成24年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278300211&SCD=320&PCD=22

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成24年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が、利用者1人ひとり家族のような想いで支援し、笑顔あふれる毎日が送れるように関わりを大切にしている。それは、毎日行っているカンファレンスでも利用者の立場にたった意見を出し合い、その人らしい生活が送れるように支援を真剣に考えている。「お互い様の心」の理念の下、どんなことでも話し合いが出来る関係が作れ、お互いの仕事などを認め合い、感謝の気持ちを持っている。結果、仕事上の感性の完熟にもつながっている。また、ご家族や地域の皆さまのご理解やご協力もあり、深く感謝をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互い様の心」の理念の下、毎日のカンファレンスや、勉強会や会議などの話し合いを通じて意識付けをしている。利用者やご家族や地域の方々、職員同志、関わる方々に感謝の気持ちを持ちながら、日々前向きに取り組んでいる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や愛犬の散歩を通して会話や挨拶をしている。自治会にも参加させていただき、町内清掃やお祭りの参加や、回覧板を回していただいている。近所の方には、野菜をいただく事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の中学校の福祉体験の受け入れや、人材育成の貢献として、ヘルパー2級の実習受け入れを行っている。また、行事の際には、事前に回覧板でお知らせし、気軽に参加していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族全員にお手紙を出している。自治会長や民生委員、包括支援センター職員や入居者にも参加していただく事もある。状況報告や課題に対してご意見をいただきながら、検討や改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加時やその都度困ったことや疑問点などがある時には、市役所や区役所に相談して、意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をせず、自ら外出される方の見守りを職員は常に意識をしている。その際は、本人の想いを聞き、くみとるようにしている。身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中でも学び、全職員が理解を深めるようにしている。職員の対応の仕方（声のかけ方や身体介護方法など）を話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が、理解を深めるようにしている。実際に利用されている方はいない。職員がいつでも確認できるようにファイルにして本棚に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて契約書や重要事項説明書や重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、言動などから思いや意見を聴くように心掛けている。面会時や電話などで要望や思いを気軽に言っていただけるような雰囲気作りに努めている。介護相談員の来訪もある。また意見箱の設置を行った。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やリーダー会議、勉強会などでテーマを決めて職員の意見が統一できるように話合い、取り組めるようにしている。必要時には、個人面談や代表者との食事などでコミュニケーションを図るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加費や交通費を法人が全額負担してくれている。法人内では、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得のための勉強会の開催やリフレックス休暇制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望時や必要時には外部研修に参加している。研修参加者は、当ホームにて伝達講習を行い、全職員が理解できるようにしている。報告がない時には、状況にあったテーマで勉強会をしている。また個々に合わせて丁寧に新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時に交流を深めている。訪問や見学や研修の受け入れなども行い、意見交換などする機会がある。また、地域連携研修にも参加し、質の向上に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から情報をいただく事が難しい時には、ご家族に伺ったり、ご家族の了解のもと家や他施設に伺い、情報提供していただいている。入居時にご本人が出来るだけ困らないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただきながら、想いを伺い、対応出来るようにしている。申し込み後も定期的にお電話をしてお話を伺うようにしている。入居前には、センター方式を用いて更にご家族の要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容やご本人の状況によって、可能な限り対応できるようにしている。現在は、訪問リハビリ（医療保険）や訪問歯科を利用される方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、関わりを深めている。家事などを通じて、活躍出来る環境もあり、職員が学ばせていただく事も多い。また、利用者と職員お互いが感謝の気持ちを持ちながら支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をしている。また電話報告や月1回のお便りなどでも報告している。行事の際には、ご家族に呼びかけて準備や片付けなど手伝っていただいており、外出なども声をかけて、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力いただきながら友人や兄弟に遊びに来ていただいたり、飼っていた犬や動物をを連れてきていただいている。また、年賀状を送り、繋がりを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、1人ひとりの性格や趣味などの情報を共有し、配慮や見守りをするようにしている。表情や行動、言葉から気持ちを読みとり、利用者同士のコミュニケーションが潤滑になるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院された際には、お見舞いに行ったり、お亡くなりになられた時には葬儀に参列させていただいている。また、退居後もご家族が遊びに来られたり、またサポートしてくれる事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて情報収集に努めている。毎日のカンファレンスでは、日々の関わりの中での言動や状態から原因背景を考え、本人の想いをくみとりながら話合い、本人にあったケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族や他サービス事業者などから情報を（センター方式）をいただき、全職員で把握に努め、ケアに取り組んでいる。入居後もその都度、ご家族から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつも」を知り、変化に気付く事が出来るように努めている。朝と夕方の申し送りなどから、日によって出来る事やわかる事を見極めながら、関わり、記録に残している。必要時には、状況チェック表を使用している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の想いや意見を大切にするため、に、センター方式を用いている。また、担当者がまとめたものをカンファレンスで話し合い、多くの職員の意見を取り入れながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的に、日常記録や状況チェック表などへ記入し、情報の共有が出来るように努めている。ヒヤリハットや急変などは色を変えて把握しやすくし、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診は職員が付き添いを行っている。その他の受診は、ご家族にご協力をお願いしている。本人や家族の状況に応じて送迎等が必要な時には、対応している。ご家族や本人の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは、太鼓やピアノ、歌手、お手伝いなど様々なボランティアにきていただいている。訪問理美容や地元中学生の福祉体験受け入れ、防災訓練では、消防署に協力いただき指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、同意を得て、ご協力いただいている。かかりつけ医の受診には、検査内容の把握や送迎など、緊密に連携がとれている。毎週2回往診や、急変時には、看護師や先生に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日１～２回、顔なじみの看護師に来ていただいている。利用者の状態を毎日報告しており、相談がしやすい環境である。急変時に連絡すると、２４時間体制で対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、付き添い本人の情報を細かく提供している。職員は、お見舞いに行くようにしている。退院後に過ごしやすいように、病院からの説明に立ち会わせていただいたり、情報をいただき、対応策を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、同意を得ている。状況に変化があった時には医師や看護師と職員が連携をとり、その都度、ご家族に連絡し話合い、安心していただけるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当法人の看護師にその都度助言や指導をしていただいている。新人職員にも理解できるように職員よる緊急時対応方法マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。また毎月リスクマネージメントを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに、運営推進会議ではご家族、地域の代表者や民生委員にもご協力、ご参加していただき避難訓練を行い、消防署の指導助言をいただき、理解を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの状況に合わせた声かけや対応をしている。個人情報は漏洩する事がないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい利用者には行動や表情から読みとる事や選択しやすいように配慮や働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には可能な限り対応出来るようにしている。利用者の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行かれたり、親戚による散髪や訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカットや毛染めやパーマを行っている。意思表示が上手く出来にくい利用者には、情報から「その人らしさ」を大切にする支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から野菜を切ったり、盛り付けや配膳、片付けなど会話をしながら行っている。畑で採れたものを調理したり、日曜日には好みの物を一緒に作っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥、おにぎりなどで対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録しており、食欲などの変化が把握できるようにしている。食欲がない時には、嗜好品などで柔軟に対応している。水分摂取が少ない時には、本人に合わせた時間や飲みやすい物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には1人ひとりに合わせた支援方法で歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎週歯科医と歯科衛生士の往診があり、必要時に診ていただき、相談もしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が、おむつ体験をして気持ちの理解に努めている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。状況チェック表を使用しサインや排泄パターンをつかむように心がけ心地良く過ごす事が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品を取り入れている。日曜日には食物繊維が多く摂れるような食材を使用する事もある。水分が進まない方には、嗜好品で対応している。また、おむつの方も排便がトイレで出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしている。本人の希望を聞きながら個々の入浴状況を把握し、嫌がる方には安心していただけるように意識的に関わりを増やして１人ひとりのタイミングを大切にした声かけや楽しみとなるような環境作りを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言動から、体調や疲労などをよみとり、休息が出来るように配慮している。夜間眠れない時には、原因を探り、お話を聞きたり、飲み物を飲んだり、嗜好品を食べる事もある。また、添い寝など安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに残し、管理している。処方変更時には、連絡ノートに記入し、職員全員が把握出来るようにしている。変化は記録に残すようにしている。内服は個々に合わせた支援を行い、飲み込むまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からいただいた情報をもとに、利用者の得意分野を活かしながら、関わりをもつように努めている。利用者が行いやすいように環境作りを行い、意識的に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭での日向ぼっこや犬の散歩や買い物、ドライブに行かれている。ユニット毎の外食は計画的に行い、ご家族の協力もあり、親睦を深めている。食事もご家族と地域の方の理解により食べやすいように配慮され、ミキサー食の利用者も参加する事が出来た。１人ひとりの満足度に繋がるように、出来る限り対応している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が管理されている利用者もいるが、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理されている利用者が多い。支払いは、出来るだけ利用者に行っていただけるようにお財布をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて、ご家族や親しい人に送っている。返事が来ると喜ばれている。電話は、希望時や、電話をかけて来られた際に、本人と大切な人を繋ぎ、やりとりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、月ごとに季節にあった飾り付けをさりげなく行っている。また、季節の花をいただいたり、植物が置いてある。季節によって1階フロアーからは藤棚や廊下からは、紫陽花やさざんかが見える。利用者に合わせた環境作りに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でくつろぐ事が出来るようにしている。廊下の窓の近くにソファーや鉢植えなどを置き、心地良く過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みのもの（健康器具・植物）など持ち込んでいただいている。家具の配置などは、安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	関わりから、今出来る事やわかる事を見極め、支援出来るようにしている。個々に合わせ声をかけたり、一緒に行動して本人の立場になって考えるように努めている。昼夜トイレがわかるように必要な所はドアを開けて電気をつけている。		